

阿知の藤を知っていますか!?

阿知の藤だより

倉敷市の花ー藤ー

発行者
倉敷東小学校
名前
益古紗世



藤の花は紫色のたれ下がる姿が美しい日本古来の花です。古くから振袖姿の女性に例えられるように優雅で柔らかい印象をあたえます。阿智神社にある藤は「アケボノフジ」という珍しい品種で開花した初めは淡紅色の花が咲きますが次第に白色に変わるといふ特色があります。日本一大きな木で幹の周りが5メートル根元の周りは22メートルもあり、昭和31年に岡山県の天然記念物に指定されました。また藤には年輪が無くためむきりとした

樹齢は分かりませんが、30年と50年といわれています。一時は枯れかけていましたが地元住民の働きかけで平成30年より3年がかりで治りようをし、回復しました。その時の私たち小学校の5年生も阿知の藤応援団を作り藤を助ける手助けをしました。今はまだ回復中ですが、また花を咲かせるようになったら藤まつりが開催される予定です。



藤はマメ科の植物

藤はマメ科のつる性の植物です。4と6月にチヨウのような形の小花を房状にたれ下がり幹の方から先端に向かって咲き進めます。花の後には10と20センチのインゲンマメのような細長い実をつけます。花「言言や」は毒のある部分です。十分に加熱をすれば花や豆は食べることが出来ます。また、藤には毒性だけがありません。役には立ちます。葉効もふくまれています。主に種子で古くから下剤として小豆を煎じたものが使用されます。

社説

藤の花の言葉は「優しさ」に感じています。倉敷市内では阿智神社だけでなく芸文館などいろいろな場所で藤の花を楽しむことができます。東小の生徒としてこれから藤の花を守る手助けができたと思います。



藤は「不死」を願う植物と「不二（和合）」を願う植物とされたのではないかと

